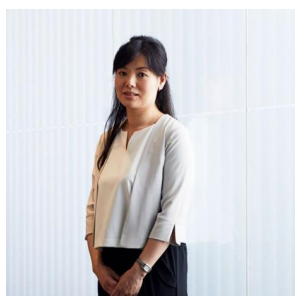


プロフェッショナルの仕事

第一線で活躍するメンバーへのインタビューです。

様々な業種・業界から集結したプロフェッショナルのメンバーが、業務内容、やりがい等、生の声をお伝えします。

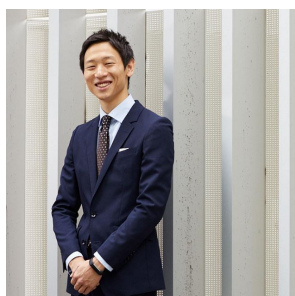
インダストリー



枠組みを飛び越えて、これからの金融業界を考えていきたい

シニアマネジャー

大手金融機関出身／リスク管理／働く環境・魅力



多様なセクターを“つなげる”ことで、社会課題にアプローチする

マネジャー

行政職員出身／パブリックセクター／グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働／会社の雰囲気



すべての経験が線になってつながる仕事

パートナー

ガバナンス領域／海外勤務／グローバル連携／キャリアパス／成長実感



お客様の目線に立って、未来を想像する仕事

マネージングディレクター

大手自動車メーカー出身／自動車業界／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力



多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルと切磋琢磨できる環境

マネジャー

金融業界／前橋ソーシャルイノベーションハブ／Uターン

コンピテンシー



地域社会の発展と組織の成長に貢献

パートナー

多様な専門家との協働／働く環境・魅力／中京エリア



仕事と育児を両立するプロフェッショナルを目指して

マネジャー

外資系総合コンサルファーム出身／グローバルバナンス領域担当／グループ内連携／多様な専門家との協働／女性活躍



100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

マネジャー

独立系SI企業出身／内部監査・内部統制／異業種からの転職／育児との両立／働く環境・魅力



広い視野と人間性を身につけられる仕事

シニアコンサルタント

損害保険会社出身／異業種からの転職／人材育成



クライアントの戦略的なデータ活用をサポートする

マネジャー

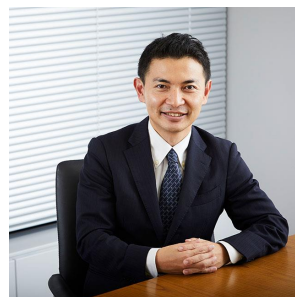
異業種からの転職／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力



お客様の成長に立ち会えるのが仕事の醍醐味

マネジャー

一般企業出身／投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリー業務／M&A／公認会計士／成長実感



大きな責任が伴う仕事。だからこそ、大きなやりがいがある

マネジャー

金融系システムコンサルタント出身／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力



会社と人が成長し続けるための仕組みを作る

ディレクター

労務リスクマネジメントアドバイザー／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働



オープンで安心して働くことができる環境

コンサルタント

事業会社出身／システム監査／西日本エリア／自己成長／働く環境・魅力



ワークライフバランスを保ちながら自己成長を実現できる

コンサルタント

システム監査／西日本エリア／成長実感／働く環境・魅力



仲間とともに得られる達成感は、何事にも代えがたいもの

コンサルタント

サイバーリスク／西日本エリア／人材育成／女性活躍



プロジェクトのニーズに合わせて、お客様に価値を提供していく

コンサルタント

IT業界出身／DX推進支援アドバイザー／西日本エリア／多様な働き方／働く環境・魅力

新規事業開発



新しい技術とビジネスの接点を作ることがミッション

シニアマネジャー

広告代理店出身／新規事業推進／女性活躍／女性の働きやすさ



今、世界で起きていることを知りたい。その好奇心を満たせる仕事

マネジャー

証券会社出身／計量経済／働く環境・魅力／社風

デジタルガバナンス



クライアントのDX推進に向け、リスク起点でITプロジェクトを支援する

マネジャー

証券系シンクタンク出身／基幹システム構築／働く環境・魅力／Welcome back（再入社）



正しいことを言える独立した立場から、金融・保険業界の健全な発展に貢献する

シニアマネジャー

DX支援／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力



DX時代の新しいアドバイザリー像をつくりたい

シニアマネジャー

金融系Sier出身／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力



各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

シニアコンサルタント

独立系Sier企業出身／グローバル連携／若手活躍／リモートワーク



業界全体をより良くするための力になりたい

シニアコンサルタント

保険会社出身／保険業界／成長実感／若手活躍

[採用ページへ戻る](#)

枠組みを飛び越えて、 これからの金融業界を考えていきたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
ファイナンシャルサービシーズ シニアマネジャー 〈2011年4月入社〉
大手金融機関出身
リスク管理／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.ファイナンシャルサービシーズでの仕事内容について教えてください。

A. 金融機関向けにリスク管理関連のアドバイザリー業務に従事しています。金融機関のリスク管理の実務は、リスク量の計測、計量化といったテクニカルなものから、ガバナンスや組織・体制、内部管理体制、内部監査といった内部統制の側面も整備していくことが重要であり、チームで提供しているアドバイザリーサービスは多岐に渡ります。また、銀行を対象とした健全性の基準として自己資本規制があり、従来から銀行の内部管理手法を取り入れたものとして進展してきていますが、2017年末には、海外展開する大手銀行を対象にした新たな国際資本規制の枠組み

（バーゼルIII）の最終化が完了しています。今後は、本邦金融機関の国内実施の内容が具体化する中で、クライアントの円滑な実施をサポートしていく必要があると考えています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 大手金融機関でリスク管理業務を担当した後、大学院に進学し、その後、監査法人で市場リスク管理、信用リスク管理、オペレーショナルリスク管理及びバーゼル規制のアドバイザリーサービスなどを行っていました。トーマツに入社したのは知人に声をかけていただいたことがいちばんのきっかけですが、当時、トーマツがちょうど金融機関向けのアドバイザリー業務を広げていこうとしている時期で、興味を持ったことも大きいですね。リスクアドバイザリーはお客様のために何ができるかを考え、それをアウトプットすることでお客様からも周りからも評価される仕事。社内調整や社内政治といったものではなく、仕事の質でしっかりと評価されるので、とてもやりがいがあります。



Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 前職に比べると上下関係があまりなく、組織がフラットで、やりたいことを主張できる自由な雰囲気があるので非常に働きやすい職場だと思います。また、ベビーシッター制度や病児育児への補助、企業内保育園など、子育て支援制度が充実している点は母親としてとても助かります。私は祖母がバックアップしてくれているので使っていませんが、いざというときに使えるインフラがあるのは安心感があります。私自身、一時期仕事を辞めようかと考えた時期もありましたが、今は仕事を続けていてよかったと思います。男性、女性に関係なく、社会との接点を持つことは大事ですし、仕事はそのうちのひとつの手段。ですから、仕事は長く続けられる環境があることが重要だと思います。子育てに専念する時期も人生の1コマとしてとても素敵ですが、私は子どもと接している自分と、社会と接している自分の両方があることでバランスが取れているので、子育ても仕事も両立できるのはとても嬉しいですね。



Q.今後の目標を教えてください。

A. 今、金融業界は異業種の参入が加速しており、情報サービスを始めとする非金融分野のサービスの進展が様々な金融サービスと組み合わせ、フィンテックのようなイノベーションがもたらされ、それらが銀行法の再編など金融機関の規制環境すら変革しようとしています。

そうしたなかで、私たちも新しくお手伝いできることはないかと常に考えていく必要があります。金融機関だからこういうことをやるべきと考えるのではなく、これまでの枠組みを飛び越えて、これからの金融業界ができること、求められることをお客様である金融機関と一緒に考えていきたいですね。また社内では私はマネジャーという立場なので、スタッフの適性を見極めながら、チームとして成熟度を高めて、お客様をサポートできればと思います。

多様なセクターを“つなげる”ことで、 社会課題にアプローチする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

ガバメント & パブリックサービシズ マネジャー 〈2016年1月入社〉

行政職員出身

パブリックセクター／グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働／会社の雰囲気

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q.現在の仕事内容について教えてください。

A. 国や地方自治体、大学等の機関に対し、地方創生や起業家育成、条約対応といった業務に携わっています。昨年は海岸の活性化による地方創生に取り組み、従来の海水浴メインの在り方を見直し、企業等と連携したビーチパークの創出などを検討しました。また、大学の経営改善に向けた学生確保施策を提案したり、起業家の方々の事業拡大のために共にニューヨークに行き、現地での活動をサポートしたりしました。このように、パブリックセクターの仕事は非常に幅広いという特徴があります。

ほかにも、他部門との連携が多いことも特徴といえます。起業家育成ならDTVS(デロイト トーマツ ベンチャーサポート)と、まちづくりならDTFA (デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー)、地方創生はDTC (デロイト トーマツ コンサルティング)と一緒に動いています。また海外調査等においては、現地のデロイトメンバーファームと連携することもあります。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 様々なセクターの連携を促す立場での仕事ができると考えたからです。

私の前職は行政職員で、人材育成やダイバーシティの推進、待機児童対策などの業務を担当しました。その中で、社会の抱える課題を解決するためには、行政だけのリソースでは不十分ということを感じました。これからは、多様なセクターの協力が欠かせません。そのため、行政職員として働きながら、多様なセクターのことを理解するため、政治塾や経営大学院に通ったり、コミュニティファンドの立ち上げに参画したりしました。(その後、それらをつなげるポジションを担える仕事とを考え、公共系のアドバイザリーに取り組んでいたトーマツに入社しました。入社前のトーマツのイメージは、監査法人ということもあり「会計をする人の集まり」でしたが、実際には多様なバックグラウンドの人が、それぞれの強みを活かし、会計に限らず様々な領域でサービスを提供していました。トーマツ入社前に、行政職員出身の先輩を紹介してもらい、その方の高い視座や勤勉な姿勢にも刺激を受け入社を決めました。



Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 当初から希望していた「さまざまなセクターをつなげて社会課題にアプローチする」ということに挑戦できているので、非常に強くやりがいを感じています。特に私たちのユニットのリーダーは、収益性だけを追求するのではなく、いかに社会に価値を提供するのかという点に強くコミットしています。その姿勢はユニットの文化となっており、働くスタッフのモチベーションにつながっています。

パブリックセクターで大変なことは、社会情勢によって毎年仕事の内容が変わるため、自分自身も変わり続け、学び続けたいといけない点だと思います。



Q.社内の雰囲気について教えてください。

A. マイクロマネジメントはほとんどなく、自分がやりたい仕事に、やりたい方法でアプローチできます。また、役職や入社年度に関係なく、自由に意見を言い合える雰囲気があります。私自身も入社1年目から、自分が興味ある案件への提案を行うなど、自分の意志で取り組みたい仕事に近づくことができました。ただ、きっちりとした枠組みのなかで、指示を受けて働きたい方はやりづらいかもしれません。パブリックセクターには、コンサルティングファーム出身者以外にも、行政、銀行、NGO、青年海外協力隊などでの経験者や、システム、建築、経営、会計等様々な専門家が在籍しており、刺激を受けることも多いですね。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 仕事として「つなげる」ということを、より追求していきたいです。行政は今後さらにリソースが少なくなっていくと思います。そこにビジネスの力、市民の力を使って新たな価値創出の仕組みを作っていきたいと考えています。それを実現させるには、多様な業界での専門的な知見や、国内外のネットワーク等が求められます。トーマツは全国に根差したサービス提供をしながら、グローバルでも知見や事例を共有しており、充実した体制でサポートしてくれています。

すべての経験が線になってつながる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

コンシューマー・マニュファクチャリング・TMT パートナー〈2004年12月入社〉

ガバナンス領域／海外勤務／グローバル連携／キャリアパス／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q.コンシューマー・マニュファクチャリング・TMTの仕事内容について教えてください。

A. コンシューマー・マニュファクチャリング・TMTは、「コンシューマー・マニュファクチャリング/テクノロジー・メディア・通信」に特化したインダストリー事業部のユニットで、私は主にグローバル企業の海外拠点における管理体制や内部統制など、ガバナンス領域の強化支援を担当しています。海外、とくに新興国における子会社では、日本との文化の違いやコミュニケーションの問題から業務がうまく回らないことがあります。そうした際にお客様の海外子会社に対して、私たちがチームを組み、ルール決めやモニタリングをできる仕組み作りのお手伝いをする事で、業務が滞りなく進む

ようにサポートしています。経済成長によって海外拠点の重要性が増す一方で、オペレーションが追いついていないという悩みを抱えている企業は少なくありません。

ですから、私たちのようなアドバイザリーの仕事は、今後も伸びていく分野だと感じています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 私はトーマツに入社後、大阪で会計監査、東京でM&Aのアドバイザリー、1年半の証券会社出向、4年間のインドネシア・ジャカルタ事務所駐在を経験したあと、さまざまな経験や人とのネットワークを活かした仕事をしたいと思い、今のユニットへの希望をだしました。

トーマツでは基本的に本人の希望が最大限に尊重されます。私のようにさまざまな場所で多様な経験を積みたいと思えばそれも可能ですし、仕事をしながら英語の勉強をするのに限界を感じて、1か月間の休みをもらい、語学留学に行ったこともあります。

もちろん反対に1つの場所で、専門性を高めたいという働き方も可能です。こうした本人の希望を尊重する働き方は、まさにトーマツにいたからこそできたことだと思います。トーマツは組織がフラットで、年齢やポジションにかかわらず意見を言い合える風土がありますし、取り組んでみたい仕事や、目標にしていることを言えば、それをサポートしてくれる制度も、実行できる規模もあります。こうした点がトーマツの魅力ではないでしょうか。



Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. 今のユニットでは、これまでトーマツで身につけたすべての経験が活かされていますが、なかでもジャカルタで文化の違う人たちと一緒に仕事したことは、非常に役立っています。日本であれば、仕事が終わるまで遅くまで働く人も珍しくありませんが、海外では時間がくれば帰るのが当たり前という人もいます。ただ、日本のやり方を押しつけるのではなく、その国の文化を理解して、現場で働く人の顔を見た上で仕事を進めないと、何事もうまくいきません。そうした肌感覚を持てたことが今の仕事につながっています。また、海外で業務を進めるにあたっては、デロイトのネットワークが必要不可欠です。

海外のトーマツで働くことでネットワークができ、信頼できる人間関係が築けたことは今の仕事で大きな助けになっています。



Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A.「財務報告及び関連する内部統制等を第三者の立場から見る」監査と比べ、リスクアドバイザリーは「クライアントの立場に立ちながら、外部のプロフェッショナルとしてアドバイスを行う」側面が大きいと言えます。自分たちだけでは解決できない課題だからこそ、お客様は私たちに価値を見だし、依頼してくださっているわけですから、そこでしっかりと成果をだし、海外の拠点がしっかりと動き出すことは大きなやりがいのひとつです。

一方で、非常にハードルの高い課題を任されますから、当然、簡単なプロジェクトはひとつもありません。お客様や国内のチームはもちろん、海外ともしっかり連携していかなければいけませんし、常に専門家として知識をアップデートしていく必要があります。だからこそ、お客様から感謝の言葉をかけていただいたときは、本当に嬉しいものです。今はアジア中心の仕事が多いのですが、今後は欧米も含めてお客様をサポートしていきたいですね。

お客様の目線に立って、未来を想像する仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

オートモーティブ マネージングディレクター 〈2021年6月入社〉

大手自動車メーカー出身

自動車業界／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q.オートモーティブでの仕事内容について教えてください。

A. もともとオートモーティブユニットはコンシューマーユニット（製造業に専門性を持つチーム）の一部でしたが、自動車業界向けのビジネス拡大が期待されることから、独立してユニットとして動きだしたばかりのチームになります。そのため、現在は主に組織の基盤作りに注力し、人材を増やしながら、どのようにビジネスを展開していくのか、戦略を立てている段階です。リスクアドバイザーの仕事で最も難しいのは、リスクの重要性をお客様に気づいていただくこと。お客様は日々の業務や目の前の課題への対応に追われていることも多く、将来、予想されるリスクについて説明してもなかなか心に響きません。そこで、リスクテイクによって、結果的に戦略がよりスムーズに実行できることを丁寧に説明し、リスクを放置することの危険性を認識していただくように気を付けています。

Q.デロイト トーマツ グループを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は大手自動車メーカーに17年間在籍していました。新卒で入社してから一貫してサプライチェーンマネジメントやマニュファクチャリング領域などにに関わり、情報システム部門を代表して、海外に駐在した経験もあります。そうしたなか、デロイト トーマツ グループのリスクアドバイザービジネスがオートモーティブユニットを立ち上げると聞き、転職を決意しました。前職でのキャリアには恵まれていましたが、新しい組織を牽引していく仕事であること、これまでの経験を活かして自動車業界に外部の立場から貢献できる点に大きな魅力を感じました。

Q.デロイト トーマツ グループで働くことの魅力はどんなところですか？

A. いわゆるビッグ4と呼ばれる大手ファームを見ても、自動車業界に対するコンサルティングやファイナンシャルアドバイザーなど、さまざまなプロジェクトが動いています。そのうえでトーマツのリスクアドバイザーは、デロイト トーマツ グループのソリューションを組み合わせることで、お客様のさまざまな部門を横断しながら課題を把握し、トータルで最適なサービスを提供することができます。また、私自身もグループに所属するたくさんのプロフェッショナルと会話することで、さまざまな知識を身につけることができ、成長を感じています。コンサルティングやアドバイザー業務はハードワークというイメージがありましたが、トーマツではスタッフ、マネジャー、シニアマネジャーそれぞれが互いの意思決定を尊重し、権限委譲がしっかりとされており、効率的な働き方ができていると感じます。スピード感のあるサービス提供ができるのも、こうした組織体制だからこそだと思いますし、社内ですっかりと信頼関係ができているのは素晴らしいですね。





Q.今後の目標を教えてください。

A. まずは自動車メーカーやサプライヤーの目線に立って、日々の運用のなかできちんと使っていただけるツールや仕組みを提供することが目標です。一方で、リスクは常に変わりますから、将来にも備えなければいけません。たとえばこの先数年で考えても、自動車業界には大きく「サイバーセキュリティ」「デジタルトランスフォーメーション（DX）」「サードパーティーリスクマネジメント」「サステナビリティ」の分野でリスクが想定されるため、この4領域でサービスを提供していきたいと考えています。さらに中長期的には日本のみならず、国内メーカーやサプライヤーが進出しているアジアパシフィック地域全体を我々がサポートするための環境を整えたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. リスクアドバイザーは「未来を想像する」仕事です。担当する業界の10年後、20年後、30年後をどのようにイメージができるか。将来をイメージしてシミュレーションできる能力が、リスクアドバイザーとして重要な素養だと思います。中長期的な視点が明確でなければ、お客様から話を引き出せません。お客様との会話を発展させながら課題にフォーカスできる人が、リスクアドバイザーに向いていると思います。特にオートモーティブユニットでは、デジタルに特化した人材を強く求めています。これまでデジタルソリューションを使ってビジネスのプロセスを変えてきたような経験を持つ方には、幅広く活躍していただけるはずです。

多様なバックグラウンドをプロフェッショナルと切磋琢磨できる環境

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー事業部
ガバメント & パブリックサービシーズ コンサルタント
金融業界
前橋ソーシャルイノベーションハブ／Uターン

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q. 担当している業務の内容を教えてください。

A. パブリックセクターに関係する業務を担当している部門に所属し、主にスマートシティ事業の支援を担当しています。具体的には、スマートシティ事業の推進主体となる官民連携で立ち上げられたスタートアップ企業に対し、前橋市で展開している地域通貨事業の支援を主に担当しているほか、財務や法務、人事といったコーポレート業務のサポートを行っています。

Q. デロイト トーマツ グループを転職先にした理由を教えてください。

A. デロイト トーマツグループの拠点である「MAEBASHI Social Innovation Hub」が前橋市に設立されたことが大きな理由です。

私は前橋市の近隣地域に居住しており、そのなじみのある場所にデロイト トーマツグループの拠点ができ、さらに人材採用も行っていることを広告で知りました。それを見て、ぜひコンサルティングファームで働いてみたい、チャレンジしてみたいと考えるようになりました。

募集要項を見ると、募集職種の1つにパブリックセクター向けのDXコンサルタントがありました。当時はクレジットカード事業を展開する企業に勤めていて、DXにもつながるIT関連の業務経験があったほか、官公庁向けの業務を担当したことがあったため、自分の経験を活かせるのではないかと考えて応募することにしました。

Q. 現在勤務されている「MAEBASHI Social Innovation Hub」の魅力を教えてください。

A. 新しく快適なオフィスであることがMAEBASHI Social Innovation Hubの大きな魅力です。

特にファシリティ面が優れていると感じています。コロナ禍を経て、リモート会議が定着した現在ではWeb会議はもちろん、対面会議にも柔軟に対応できる設備が整っていることは大変便利に感じます。最近では前橋駅から徒歩数分という立地を生かして、他拠点メンバーが対面会議を開催することも多くなってきました。またスペースに余裕があることがうれしいですね。パーソナルスペースをしっかり確保した上で仕事に取り組みますし、共有エリアも広いため、複数のプロジェクトメンバーで集まるミーティングや共同作業もストレスがありません。



Q. MAEBASHI Social Innovation Hubへの転職を検討している人へメッセージをお願いいたします。

A. デロイト トーマツグループは異なるバックグラウンドを持つプロフェッショナルが数多く在籍していて、そうした人たちが集まることによって新たな価値を生み出しています。

たとえば我々のチームには事業再生に強みを持つ人もいれば、ヒューマンリソースや企業法務、あるいは財務に精通した人など、さまざまなジャンルの人がいるプロフェッショナル集団になっています。こうした人たちが1つのプロジェクトに集まり、共通の目標に向かって仕事に取り組むことによって新しい価値が生まれています。そして一緒に働くことで多くのことを学ぶことができ、自身の成長につながります。

コンサルティングファーム、プロフェッショナルファームなどと聞くと躊躇してしまうかもしれませんが、自分のこれまでの知見や経験を活かしたいと考えているのであれば、思い切って飛び込んでほしいと思います。

地域社会の発展と組織の成長に貢献

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
中京リスクアドバイザー パートナー
多様な専門家との協働／働く環境・魅力／中京エリア

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q. 現在の仕事内容について教えてください。

A. 自治体におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)や住民サービス提供の基盤となるITの企画・調達・構築に関するアドバイザービジネスをリードしています。主たる担当エリアは中京地区ですが、関西や西日本の自治体からお声がけをいただいたり提案に行ったりなど、実際に現地に足を運び、会って話をする事で、多くの自治体を支援しています。こうした活動をとおして、地域課題解決や地域のデジタル化推進に貢献していると感じています。

また、中京リスクアドバイザーユニットの事業ユニット長補佐として、中京リスクアドバイザーユニット全体に関する戦略立案と実行、組織人事、他さまざまな業務の運営を補佐しています。

組織の持続的かつ高い成長を実現するために、戦略的な視点からのアプローチを重視し、各チームと協力して目標達成に向けて取り組んでいます。

一方、デロイト トーマツ ウェルビーイング財団の理事として、社会課題解決をつうじて公益の増進をけん引することで、より一層の社会価値の創出に貢献する活動も行っています。

Q. デロイト トーマツ グループで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 最初に挙げるのは「デロイトが非常に多岐にわたる専門家の集団である点」です。会計、税務、法務、戦略、組織、デジタルなどの各分野の専門家が多数在籍しており、クライアントの経営課題や地域課題に対して総合的かつ専門的な提案が可能です。これはデロイトで働く者にとって非常に心強いことであると同時に、クライアントにとって、幅広いサービスと深い知見に基づく課題解決提案に驚きと価値を感じていただけているものと思っています。

次に挙げるのは「デロイト トーマツは個を尊重する組織風土を持っている点」です。タレント一人一人の個性や強みを最大限に活かし、チームとしてのシナジーを生み出すことを重視しています。このような環境で働くことで、自身の成長を実感しながら、組織の目標達成に貢献することができます。

特に、名古屋事務所にはご本人やご家族が中京地区に何らかの地縁があって、名古屋で働くことをファーストプライオリティにしているメンバーが多くいます。名古屋で働きながら、地域のクライアントや地域課題解決に貢献できることに誇りと喜びを持っており、そして名古屋に400名を超える仲間がいることは大きな魅力です。



Q. どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 仕事のやりがいを感じる瞬間は日常的にあります。

まずプロジェクトを通じて、私たちの専門性や支援がクライアントの課題解決に貢献できたと実感できた時には、大きな達成感が得られます。また、その結果としてクライアントから感謝の言葉をいただいた時も、仕事のやりがいを強く感じます。クライアントからの「ありがとう」や「あなたのおかげで解決できました」という言葉は、私にとって何よりの報酬です。これらの言葉は私たちの努力が認められた証であり、次のプロジェクトへのモチベーションになっています。



Q. 今後の目標を教えてください。

A. 自治体向けのデジタル／ITアドバイザリービジネスについて、デロイト トーマツの総合力をより活かすことで「自治体のデジタルアドバイザリーといえばデロイト」と思ってもらえる存在になることを目標としています。これによりデロイトが一つでも多くの地域課題の解決に寄与したり、自治体による住民サービスの質を向上させたりすることができると信じています。また、中京リスクアドバイザリーがクライアントから選ばれる唯一無二の存在になり、あり続けられるよう、部門運営をリードしていきたいと考えています。

さらに、中京エリアで働くプロフェッショナルにとって最も憧れる職場にすることも重要な目標です。多様な働き方に対応した制度運用を行い、個を尊重する組織風土を維持することで、一人一人が自分の能力を最大限に発揮できる環境を提供したいと思っています。

これらの目標を達成するために、常に前向きな姿勢で挑戦し続け、チームと協力して目標達成に向けて取り組んでいきます。地域社会の発展と組織の成長に貢献することで、楽しみながら自分自身も成長し続けることができると信じています。

仕事と育児を両立するプロフェッショナルを目指して

デロイト トーマツ リスクアドバイザー 合同会社

GRC／ストラテジックリスク マネジャー 〈2017年2月入社〉

外資系総合コンサルファーム出身

グローバルガバナンス領域担当／グループ内連携／多様な専門家との協働／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q.ストラテジックリスクの仕事内容について教えてください。

A. ストラテジックリスクユニットでは、「経営層が健全にリスクテイクできる経営管理の構築」をミッションとしています。
中長期リスク、新規事業・M&Aなどに関わる事業/投資リスク、ポートフォリオリスク等の分析や、パフォーマンス・リスクの統合的マネジメント、戦略を実現するためのガバナンス、また事業継続を揺るがすクライシスの平時・有事対応など、重要経営課題に正面から向き合い、多岐にわたるサービスを提供しています。その中で私はグローバルガバナンス領域を主に担当しており、多くの日系グローバル企業が抱える「海外事業・拠点のガバナンス」に関する課題に対してグローバルガバナンスポリシーの策定や本社の経営陣・事業部・コーポレートと海外拠点の双方への落とし込み、地域・事業・拠点に固有のリスク分析や内部監査サポートといった目の届きづらい海外拠点へのモニタリングを中心に行っています。

海外子会社の社員の方や、その地域のデロイトのメンバーと協業する機会も多く、英語を含めたコミュニケーション力が鍛えられることも、その仕事内容とあわせてやりがいのひとつになっています。

以前はリスクへの対応は必要だと思われるけれども、本当に必要かどうか分からないものという意識を持つ企業も少なくありませんでした。しかし、近年は私たちがサービスを提供するなかで、リスクを可視化して日頃から対応していくことがいかに重要か、理解をいただいています。加えて、新型コロナウイルスの影響もあり、さまざまなリスクに対して企業の意識は大きく変化しつつあると感じています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では、外資系総合コンサルティングファームでITコンサルタントとして働いていました。転職のきっかけは仕事を続けるうちに、ITという枠にとらわれず、より経営層に近い立場でクライアントの発展を支援したいと考えたことです。トーマツを選んだのは、転職活動中にリスクアドバイザーという仕事を知り、課題だけでなくリスクに対しても、中長期的な視点から支援する点に面白味を感じたこと。ほかのプロフェッショナルファームと比べてもリスクアドバイザーをコアな業務としていることが理由です。現在の業務では常に経営層と同じ目線、会社全体に対する視野の広さが必要になりますが、それが難しさと同時にやりがいにもなっています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 一人で担うには大きな重責のある仕事ですが、デロイト トーマツ グループには想像していた以上にさまざまな分野の専門家が集まっています。多くのプロフェッショナルがクロスファンクショナルでサービスを提供していくことで、難しいプロジェクトも一丸となって乗り越えることができますし、その一翼を担えていることも大きな魅力です。また、トーマツにはFWP（フレキシブルワーキングプログラム）という制度があります。私も最近、育児休暇から復職し、現在はこの制度を適用して在宅勤務中心に働いていますが、チームメンバーが育児と仕事の両立を当然のこととして



サポートしてくれているので大いに助けられています。

前の職場では産後に復職した方は社内の仕事が多くなりがちでしたが、トーマツではそうした制限も一切なく、引き続きクライアントへのサービス提供を行っており、キャリア形成の上でも働きやすい環境です。育児休暇から復職した際に、お客様からまた一緒にやりましょうと声をかけていただいたことも嬉しかったですね。



Q. 今後の目標を教えてください。

A. トーマツのリスクアドバイザーは、社会情勢やクライアントのニーズに応じて常に柔軟に変化していく集団であると感じています。プロジェクト毎にまったく違う仕事をしている気持ちになるほど扱うテーマが変わり、情報や知識のキャッチアップに難しさを感じることもありますが、知らないことはすぐに社内の専門家に教えてもらえる環境が整っているので、今後もクライアントの課題に対してしっかりとしたサービスを提供していくことが仕事の上での目標です。

もうひとつの目標は、後輩たちのロールモデルになっていくこと。管理職のなかにも子育てをしながらキャリアアップされている先輩がいらっしゃいますが、社内全体でワーキングマザーが増えてきている今、私もFWPの制度も活用しながら対クライアントの仕事を続けていきたいですね。

100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

GRC／オペレーショナルリスク マネジャー 〈2007年9月入社〉

独立系SI企業出身

内部監査・内部統制／異業種からの転職／育児との両立／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.GRCの仕事内容について教えてください。

A. FO（フロントオフィス）職としてGRCに所属し、不動産業界のお客様を担当しています。業務内容は大きく分けて2つあり、1つ目が個人情報やマイナンバー、情報セキュリティに関する管理体制の構築や内部監査の支援。2つ目が内部統制報告制度（J-SOX）のサポートです。

前者は、経済産業省が公表する情報セキュリティ関連の基準や個人情報保護委員会が公表するガイドラインに従い、社内のルールを作成するところから、実践、内部監査、是正措置等の支援を行っています。

また、後者では、お客様の実態に合わせて経営者評価業務をサポートしています。

トーマツの業務は会計監査が主軸となっていますが、デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社は会計以外の部分でも、お客様と一緒に良い方法を考えていくところが醍醐味でもあり、難しいところでもあります。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 以前は独立系のSI企業で金融機関のシステム構築やセキュリティ設計をしていました。

ですから、入社前はこれまでとまったく違う業界・業務に自分が対応できるのか不安もありましたが、それ以上に幅広い業務や知識に触れられる点に魅力を感じたのが、トーマツを選んだ理由です。

偶然ですが、前職の頃に簿記や財務諸表論、財政論などを勉強し、システム監査の資格も取っていたことが入社後は非常に役立っていますし、入社後は充実したトーマツの研修プログラムを活用しながら、業務に必要な知識を身につけていくことができました。



Q.子育てと仕事をどのように両立させているのか教えてください。

A. 私には2歳になる息子がいるのですが、現在はFWP制度（フレキシブル・ワーキング・プログラム）を利用しています。これはライフステージに応じて休職や業務量軽減、業務時間軽減などを申請できる制度で、私は業務軽減を選択して、クライアントに伺わなければいけない案件を減らし、急ぎではない社内業務を増やしてもらっています。

また、子どもがまだ小さく、急な病気などでお休みすることもあるので、プロジェクトを担当する際は、なるべくバックアップを受けられるような体制を組んでいただいています。子どもが小さいうちは、仕事の第一線から外れて働く方も少なくないと思うのですが、その場合、キャリアが一時的にストップしてしまうことにもなります。私は、出産後も仕事内容は変えずに、業務量や時間で調整して、「細く長く」キャリアを構築したいと考えていたので、今の働き方は理想的ですね。それにトーマツでは子育てに関する制度は女性に限らず男性も利用しやすく、遠慮しなければならない雰囲気はまったくありませんから、安心して今の働き方を続けることができます。



Q.今後の目標を教えてください。

A. 今、介護が必要な家族がいるのですが、今後のことを考えると公的なサポートや会社の制度も利用しながら、子育てと介護、そして仕事も続けることが理想です。

トーマツは会社としてはもちろん、上長の方も、一人一人のライフステージに合わせて成長することを期待してくれているので、業務量や内容を相談すると、チャレンジも、セーブもさせてもらえる風土があります。

100か0かではなく、場合によっては60でいいという働き方ができる制度があるのは、子育てや介護を考える上で、大きな安心感につながります。

仕事に子育てに介護と、すべてをこなすのは大変ですが、同時にそれぞれが良い意味での気分転換にもなります。今、トーマツにも子育てをしながら働いている女性もたくさんいますし、今は別の会社で働いているけれど、子育てや介護をしながら、トーマツで働いてみたいという女性もたくさんいらっしゃると思います。私が実践することで、トーマツならこういう働き方ができるということを知っていただけたら、嬉しいですね。

広い視野と人間性を身につけられる仕事

有限責任監査法人トーマツ（デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社 出向）
IT／アシュアランス シニアコンサルタント 〈2014年4月入社〉
損害保険会社出身
異業種からの転職／人材育成

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.アシュアランスの仕事内容について教えてください。

A. 主に財務諸表を作成するシステム及び内部統制を調査評価し、システム面から会計監査をサポートする仕事です。自動計算などがルールに則ったものか、システムが正しく構築、運用される仕組みとなっているかなどを評価します。
システムはサイバーセキュリティやクラウドなどのシステムへの脅威の高まりや最新技術の導入によって日々進化しているため、監査とシステム両方の知識が必要になります。
さらに海外に上場しているお客様の場合は、現地の基準で監査する必要があるため、海外のデロイトメンバーと情報共有しながらフィードバックしてもらうなど、海外との連携も少なくありません。

Q.この職種を選んだ理由を教えてください。

A. 以前は国内の損害保険会社の情報システム部に勤めていたのですが、そこで「監査」という言葉を耳にする機会が多く、興味を持ったのが最初のきっかけです。
その後、社内システムを担当するうちに、他の会社のシステムを知りたいと思ったことや、広い世界でいろいろな人と触れ合うことで、自分の人間性を高められる仕事をしたいと思うようになり、この仕事を選びました。トーマツはデロイト トーマツ グループならではのグローバルな視点に長けている印象があったので、広い世界でたくさんの人とコミュニケーションを取り、視野を広げたいと願っていた私にとって非常に魅力的でした。

Q.入社前に不安に感じることはありましたか？

A. 私自身、監査する側の経験はなかったので、業務についていけるかがとても不安でした。
ただ、社内の研修が充実していて、集合研修やe-learningによる自己学習など、意欲さえあれば知識を身につけられる環境は整っています。それに転職者も多いので、入社年次は関係なくサポートしあう雰囲気ができあがっているように感じます。
監査法人という言葉から、どうしても「固い」イメージを持っていましたが、そうした人の温かさは、良い意味で意外でした。
そしてなによりトーマツには様々なバックグラウンドと豊富な経験を持っている人が大勢いるので、そうした人たちと一緒に仕事をできることが刺激的ですね。





Q.仕事において難しいのはどのような点ですか？

A. 監査法人という立場上、指摘しなければいけない機会があり、クライアントへの伝え方が難しいと悩むときがあります。

信頼できる人が言わなければ、クライアントも受け入れがたいものがあると思います。

信頼されるためには、知識・スキル・経験があるのが前提。

そして言っていることと、やっていることが矛盾しないように首尾一貫していないといけません。

私の入社のも動機が自分の人間性を高めたい、コミュニケーション力を高めたいというものでしたが、今後もシステムや監査など、幅広い知識を吸収して、信頼される人間になるということが、この仕事には必要不可欠だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. お客様から「トーマツさんなら知っていると思いますが...」「さすがトーマツさんだね」と言われることが多く、大きな看板を背負っていることを自覚する場面が少なくありません。

お客様から求められる水準が高いなかでも、「この人に相談したい」「この人の言っていることなら間違いない」と言ってもらえるような人になることが目標ですね。

クライアントの戦略的なデータ活用をサポートする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

IT／デロイトアナリティクス マネジャー 〈2015年10月入社〉

異業種からの転職／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q.デロイトアナリティクスの仕事内容について教えてください。

A. デロイトアナリティクスは、企業活動に伴う様々な領域でアナリティクスを活用したサービスを提供し、また独自に有するR&D部門で最先端技術や新しい分析手法の研究開発を行うことで、データ分析における専門的な知見と技術を集約した組織として、デロイト トーマツ グループのアナリティクスサービスをリードしています。

昨今、ビジネス環境が急激に変化し、テクノロジーの浸透が進む中、企業のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みは避けられない重要な経営課題となっており、その中核となるのが経営判断への戦略的なデータ活用と言われています。その背景の中、我々はデータ収集、分析モデルの開発・選択、分析実行、分析基盤設計・提供、分析人材育成、データや分析モデルのガバナンス整備などの幅広い領域をカバーしており、クライアントの戦略的なデータ活用に資するサービスを提供しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職はフィナンシャルエンジニアとして、金融機関向けにリスク管理システムの構築やデリバティブの数値検証業務などを行っていました。ちょうど転職を考えていた当時、AIやビッグデータがバズワードになっていたことや、大学院まで統計学を専攻していたということもあり、それまで培ったITスキルと、学生時代に学んだ統計学の両方をいかせるのではと考え、データ分析コンサルタント職に興味をもちました。そうしたなか、デロイトという高い知名度に加え、数あるプロフェッショナルファームのなかでもいち早くアナリティクスのユニットを立ち上げていたことから、デロイトアナリティクスを選びました。データ分析業務のプロセスはシステム開発のプロセスとも似ている部分もあり、ITスキルの面では前職の経験が現在の業務にも活かしていると思います。



Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. クライアントに対して最適なサービスを提供するために社内のお他ユニットや、グループ会社のデロイト トーマツ コンサルティング、グローバルのデロイトメンバーファームと協業するケースも多く、ファンクションの垣根なくチーム構築できるところに、デロイト トーマツならではの総合力を感じます。

また、クライアントのビジネスを理解しながら、課題に対して最適なソリューションを提供するため、アドバイザリー及びアナリティクスの両面において高いレベルが求められる大変さもありますが、同時に大きなやりがいを感じています。



Q.今後の目標を教えてください。

A. データ分析をコアとして、クライアントとともに企業を変革し、前進させることが我々データ分析コンサルタントの使命です。様々なプロジェクトを通して深いビジネス知識と最先端のテクノロジー、そしてデータ分析のスキルを駆使して、社会に還元していきたいと考えています。

また、今年度よりマネジャーとしてチームを率いる立場にもなりましたので、更なる組織拡大のために、人材育成や新規のサービス開発にも力を入れていきたいと考えています。

お客様の成長に立ち会えるのが仕事の醍醐味

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

アカウントティング&ファイナンス／ファイナンシャルマネジメントアドバイザリー

マネジャー 〈2016年9月入社〉

一般企業出身

投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリー業務／M&A／公認会計士／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.ファイナンシャルマネジメントアドバイザリーの仕事内容について教えてください。

A. 会計及び財務領域の専門家としてM&Aをはじめとした投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリーサービスを提供する仕事で、具体的には、M & A等の対象となる会社の財務デューデリジェンス業務や、バリュエーションと呼ばれる企業価値評価業務、無形資産評価業務、M & Aにおける財務・会計助言などを行っています。

また、投資マネジメントの前工程として投資基準の策定や投資リスクの定量化業務、投資マネジメントの後工程として経理のPMI業務や子会社管理体制強化の支援といった、M&A前後の工程にも業務を拡大しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は一般企業の経理部でグループ全体の財務数値や開示資料を作成する業務を行っていました。

その会社がM & Aに積極的な会社であったことが、この仕事に興味を持ったきっかけです。

前職では経理部に所属していたため、主にM&A後に発生する業務が中心でしたが、M & Aという最も重要な経営手法に、上流の部分からサービス提供できるところで、もっと広く深く関わりたいと思う気持ちがありました。

転職に際しては、M & Aに軸足を置きながらも、顧客のニーズに合わせて幅広くサービスを提供できる組織であることをまず重視しました。

2点目に重視したのが、クロスボーダーの案件にも積極的に関与できる組織である点で、その両方を兼ね備えているという理由からトーマツを選びました。



Q.トーマツで働くことの魅力を教えてください。

A. トーマツのファイナンシャルマネジメントアドバイザリーは、特定の業務に対して特定の人のみが担当するのではなく、ひとりの人間が様々な業務に関与できる環境にあります。

もちろん、それぞれの業務に必要なスキルを身につけるのは大変ですが、一方で、様々な業務に関与することで、多角的に捉える視野の広さを養えるというメリットがあります。

また、財務デューデリジェンス業務を提供し、M & Aが成功した後は無形資産の評価やM&Aの対象となった会社に対する管理体制強化の支援を行うといった具合に、お客様のニーズに合わせて継続的に一貫したサービスを提供できるのがトーマツの強みであり、トーマツで働くことの魅力ですね。



Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 以前、投資会社の設立から、投資基準の策定、財務デューデリジェンス業務まで幅広くサポートさせていただく機会があり、お客様の会社がどんどん軌道に乗っていく瞬間に関与することができました。お客様の成長に立ち会えるのは本当にやりがいを感じますし、反面、お客様が抱える重要な課題に関与するため大きな責任を伴う仕事であり、常にプロ意識を持って仕事に取り組んでいます。

Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. 私は公認会計士としての専門知識に加え、一般企業で実務的な側面を経験したため、今までに培った専門知識と経験を生かして、お客様の立場と課題を理解したうえで、対応案を提案し、実際にサービス提供できた際に成長できたと感じます。

トーマツに入社してからは、多様なサービスに関与できているため、自分の専門知識と経験値がさらに増えてきたと感じます。

これは、幅広いサービスラインを持っているトーマツに入ったからこそだと思います。新しいお客様と出会うたびに新たな課題にぶつかり、それをプロジェクトメンバーとともに解決していく経験を積み重ねることで、成長していると実感します。

大きな責任が伴う仕事。だからこそ、大きなやりがいがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

中京リスクアドバイザー マネジャー 〈2015年8月入社〉

金融系システムコンサルタント出身

中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.中京リスクアドバイザーの仕事内容について教えてください。

私は愛知県に拠点を置く大手製造業様に対して、中期経営計画の策定を支援するシステムを導入するプロジェクトにコンサルタントとして参画しています。このプロジェクトには私たちのようなITアドバイザーやインダストリーに知見を持つチームに所属しているメンバー、大阪や東京に在籍しているメンバー等も参画しています。

現在、クライアントの中期経営計画は担当者の主観や経験、勘に頼っている部分も多く、根拠となるデータも膨大なエクセルファイルで管理されているため、作成に大きな労力がかかっていることに加え、データをうまく活用できていないという課題があります。

そこでデータやAIを上手に活用し、より効率的に、より精度の高い計画を作るためのシステムの開発・導入をサポートするのが私たちのミッションです。これまで仕組み化されていなかったものをシステム化しようとするのは非常に困難ですし、トーマツとしても、そしておそらくグローバルで見ても、あまり前例のないプロジェクトであり大きな責任を伴いますが、大きなやりがいも感じています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は東京で8年間、金融系のシステムコンサルタントとして働いていましたが、子どもが生まれたのをきっかけに名古屋に引っ越すことになり、転職を決意しました。これまで主にシステムの上流工程に携わっていたため、当初はシステムのコンサルティングや、事業会社のシステム部門の企画をやりたいと考えていました。しかし、そうした業務は東京で担っているケースが多いのが実情です。そうしたなか、名古屋に拠点を置き、中京のお客様に対してしっかりとサービスを提供している点、なおかつレベルの高い業務を行える点がトーマツに入社した決め手です。



Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 幅広く、かつ高い専門性を持っている人材がそろっているのが、トーマツの強みです。たとえば前職では、システムについては高い専門知識を持った方が多くいましたが、一方で狭い範囲に特化したものでした。しかしトーマツでは、経営層の方や、営業の方、事業計画の方など、非常に幅広い方と話をする機会があるため、私自身もさまざまな知識を身につける必要があります。トーマツで経験を積むことで、どのようなポジション、業務の方とも円滑にコミュニケーションがとれるようになりましたし、それに対するソリューションを考えられるようになりました。そして、自分がわからないことも、名古屋のメンバーをはじめ、大阪や東京、グローバルなどトーマツのネットワークで探せば、必ず専門家が見つかり、協力してもらうことができる。こうした点がトーマツで働くことの魅力だと思います。



Q. 今後の目標を教えてください。

A. まずは現在のプロジェクトを成功に導くことがいちばんの目標です。難易度の高い仕事をできること、その結果、お客様から評価して頂けることは大きなやりがいです。長期的な目標では、AIなど新しい技術を理解、活用しながら、お客様のビジネスに寄り添ったソリューションを提案できるアドバイザーでありたいと思っています。また、今回のような大規模プロジェクトになると、関わる人の数も多くなるため、人材が何より重要です。ITに関する専門家は国内全体で不足している状況ですから、トーマツ内での人材育成にも力を注いでいきたいですね。

会社と人が成長し続けるための仕組みを作る

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

中京リスクアドバイザー ディレクター 〈1999年10月入社〉

労務リスクマネジメントアドバイザー／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.中京リスクアドバイザーでの現在の仕事内容について教えてください。

A. 愛知、岐阜、三重、静岡などに拠点を置くお客様に向け、主に組織の再編、M & A、働き方改革、間接業務改革など組織改革や労務リスクマネジメントに関するアドバイザー業務を行っています。

お客様のニーズは時代や社内の体制によって変わりますが、最終的なゴールは、持続的に会社を成長させていくことにあります。

そのために部署やグループ会社など、組織の形や仕組みを変え、働く人の行動を改革していくことで、より働きやすい職場にしていけることが、どのようなプロジェクトにも共通するテーマになります。

アウトプットとしては、グループ会社を含めた現状の実態把握から始まり、コストも含めた現実的な落としどころを提案してほしいと要望されることが多いですね。

自動車やインフラ関連など、製造業のお客様が多いのがこのエリアの特徴で、大手のお客様の場合は、デロイト トーマツ コンサルティング（DTC）、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー（DTFA）、デロイト トーマツ 税理士法人やDT弁護士法人など、デロイトのグループ法人与自然と一緒にプロジェクトにあたることがよくあります。

Q.この仕事のやりがいと難しさを教えてください。

A. この仕事に就いて20年ほど経ちましたが、若いころと一緒に仕事をした方が、今は社長や部長として活躍されている姿を見られることは非常に嬉しいことです。

一方で、私たちの仕事によって、リストラの対象になったり、職位が下がったりと、厳しい局面に立たされる方もいらっしゃいますので、その瞬間だけを捉えるとすべての人に感謝される仕事だとは思っていません。ただし、一旦は厳しい局面に立たされた方が、新たな環境や職場でリスタートされ、活躍なさっていると耳にすることもありますので、仕事のやりがいは、長い目で見て判断することが重要なと思います。

第三者として経営者が言いにくいことを伝える必要もあります。ただ、最大限雇用を守り、持続的に成長できる会社になることが大事だと考えていますので、そうしたなかで一緒に仕事をさせていただいた方が重要な職責を担われ、会社が成長していると思うと、良かったなと感じます。

また、この20年でさまざまなことを経験するうちに、「大川に任せる」と言ってくれる方もいて、個人的な成長を実感しています。

難しい点は、この仕事は若いときから経営層の方と接する機会が多く、こちらもいろいろな経験を積み、研鑽を続けなければいけない点です。

しかも、一番努力をしなくてはいけない時期が、ちょうど20代、30代という男女ともにライフイベントが多い時期と重なりますので、私自身仕事と生活のバランスをとるのが難しかった思いがあります。



Q. トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 私はトーマツ以外で働いた経験が少ないので、ほかの会社と比較することはできませんが、真面目で誠実な方が多く、人間的に信頼できる人が多いことは今も昔も変わりません。
また、地方では監査はできても、大手のお客様にアドバイザーまでできる会社はそれほどありません。監査とリスクアドバイザーが連携し、国内はもちろん、デロイトのグローバルネットワークで得た人材や情報をフル活用しながら、お客様にワンストップなサービスを提供できるところがトーマツで働く魅力の1つだと感じます。



Q. 今後の目標を教えてください。

A. ビジネスのグローバル化同様、今後は労務や人事においても、よりグローバル化が進んでいくでしょう。違う価値観・文化を持った人たちを活用し、どうマネジメントしていくか。今まで以上にお客様からそういった課題が出てくると思いますので、我々は常に一歩、二歩先を見据えて、会社が持続的に成長するためにどうすればいいかを提案し続ける必要があります。
トーマツでは現在、労務リスクマネジメントを名古屋や大阪を中心に展開していますが、これを国内に広げ、ゆくゆくはグローバルに展開していきたいようにしたいですね。

オープンで安心して働くことができる環境

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

西日本リスクアドバイザー コンサルタント

事業会社出身

システム監査／西日本エリア／自己成長／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.現在の仕事内容について教えてください。

A. システム監査に従事しています。業務内容は、企業の財務報告に関連する情報システムが正しく構築されているか、システムの運用が内部統制に則って行われているかを評価することです。

チームは、クライアントの規模に応じて2～5名程度で構成されており、複数のクライアントを並行して担当するため、毎日異なるメンバーと業務を行っています。また、クライアント先に直接赴いて作業を行ったり、自宅からリモートで作業することもあります。

近年は、IT環境の変化が非常に早く、日々新しい知識を習得する必要がありますが、業界の最新トレンドや技術を学ぶ機会が多く、専門性を高められることに充実感を得ています。

Q.デロイト トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では金融機関のシステム開発を担当していました。高い品質が求められる金融機関のシステム開発の中でも、テスト工程や品質管理に注力し、システムの安全性を確保することがいかに重要であるかを学びました。この経験から、システム監査に対する関心が高まりました。

デロイト トーマツへの入社決め手は、福岡拠点で、西日本の上場企業を含む多様な企業に関与でき、監査に関してレベルの高い業務を行える点です。

システム開発では特定のプロジェクトや業界に限定されることが多かったですが、システム監査では幅広い業種の企業と関わり、多様なシステムやプロセスに触れる機会が増えたため、視野が広がりました。また、デロイト トーマツの尊敬できるメンバーと働くことができ、入社してよかったと実感しています。



Q.社内の雰囲気について教えてください。

A. 入社して最初に感じたのは、非常にオープンな環境が整っていることです。職位に関係なく、質問や相談がしやすい雰囲気があるため、新しいメンバーでもすぐに馴染むことができます。

また、西日本リスクアドバイザーは、ほとんどのメンバーが中途入社であるため、多様なバックグラウンドを持つ人々が集まっています。異なる業界や企業文化を経験してきたメンバーが揃っているため、独自の視点やアイデアが豊かに交わる点が非常に魅力的です。自然とオープンなコミュニケーションが推進されており、居心地の良い雰囲気です。



Q.入社前に不安に感じることはありましたか？

A. システム監査の経験がなかったため、業務の理解や仕事のペースに適應できるか心配でした。特に、IT、会計、監査など専門的な知識が必要とされる分野であるため、ついていけるかどうか不安が大きかったです。しかし、入社後は、社歴の近い先輩メンバーに相談に乗ってもらえるチューター制度や、Coachから成長支援を受けられる制度があり、心強い支えとなりました。また、チューターやCoachに限らず、どの方も丁寧に質問に応じていただき、安心して働くことができています。

さらに、充実した研修プログラムが用意されており、学んだ内容を実務に活かす機会が豊富にあります。

実際の業務に即した研修を受けることで、理論と実践が結びつき、自信を持てるようになりました。このおかげで、入社前に抱いていた不安は徐々に解消され、現在は自己成長にむけて業務に取り組んでいます。

ワークライフバランスを保ちながら自己成長を実現できる

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

西日本リスクアドバイザー コンサルタント 〈2020年9月入社〉

システム監査／西日本エリア／成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私が担当している主な業務は、システム監査です。
具体的には、財務数値が作成される過程で使用されているシステムが正しく動いているか評価する業務です。
また、監査におけるアナリティクス業務も担当しています。クライアントの売上、在庫、仕入などあらゆる膨大なデータの中に不正なデータがないか、BIツールを使って会計士と一緒に分析する業務です。
西日本リスクアドバイザーの管轄である広島県以西にある上場企業や大企業を中心に対応しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください

A. 前職はシステムエンジニアとして、システム開発・保守、BIツールやAIツールなどのプリセールス・導入を行っておりました。これまでのシステム開発に関する知識や経験が、システム監査の中で活かせると分かり、監査の道に進もうと考えましたが、いくつかある監査法人の中でトーマツを選んだ理由は、トーマツがBIやAIなどのアナリティクス分野に特に力を入れていると分かったためです。

精度の高い監査を短期間で効率的に実施するには、やはりBIツールやAIツールを有効活用することが必要だと個人的にも思っていましたし、前職での知見を更に活用できると思いました。

とはいえ、さすがにすぐにはBIツールなど使うことはないだろうと正直思っていたのですが、実際に入社して数日でTableau（BIツール）を使った業務を担当することになり、驚きと同時に即戦力になった気がして嬉しかったのを覚えています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 一つ目は、マイペースに仕事ができることです。複数のクライアントの業務を平行して対応するため、一つの業務に付きっきりで対応するということはほとんどありません。そのため、一つの業務を細かな期日に迫られて対応するというよりは、自分でスケジュールを立てて複数のタスクを平行でこなしていくイメージに近いと思いますので、自分なりにコントロールしながら仕事ができると思います。また、往査でクライアント先に出向くこともありますが、在宅で作業を行う日もあり、また閑散期には長期の有給休暇も取得できますし、育児休暇の取得も推奨



（もちろん男性も！）されていますので、仕事とプライベートの両方を充実させることができると思います。

二つ目は、自分が興味がある分野の知識、知見を伸ばすことができることです。トーマツは監査業務だけでなく、コンサルに近いアドバイザー業務も行っているため、多くの、また幅広い業務があります。併せて、E-Learningなどの研修も豊富にあります。気になる研修を自由に受講できますし、実際にそのような業務にアサインしてもらうこともできるので、業務の中で経験しながら身につけることができます。



Q.トーマツ入社して、成長できたと感じている点を教えてください

A. スケジュール管理、タスク管理が上手になったと思います。複数のクライアントの業務を平行して対応する必要があり、また突発的な作業ももちろん発生するので、先を見越して、プライオリティをつけて、業務にあたるできるようになりました。

また、個人的なことではありますが、第一子が誕生したタイミングで1か月半の育児休暇を取得しました。チーム内のサポートも厚く、当たり前のように育児休暇を取得できるトーマツの環境が、父親としての成長にも繋がったと思っています。

仲間とともに得られる達成感は、何事にも代えがたいもの

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
西日本リスクアドバイザリー シニアマネジャー 〈2006年5月入社〉
サイバーリスク／西日本エリア／人材育成／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.西日本リスクアドバイザリーでの仕事内容について教えてください

A. 西日本リスクアドバイザリーは福岡と広島に拠点を置き、様々なクライアントに対して、重要かつ喫緊な経営課題に対応するためのアドバイザリーサービスを提供しています。東京はもとより、中京や関西とも連携し、プロフェッショナルとしての様々な専門知見を集積るとともに、地域固有の課題を正確に把握することで、クライアントや地域経済の持続的な成長に貢献しています。近年は、様々なクライアントへのDXやサイバーリスクへの対応に関するアドバイザリー・コンサルティングも増加しており、それぞれが直面するステージに応じた対応策の検討やプロジェクトのエンジンとなりシステムリスクへ対処する業務まで、幅広くサービスを提供しています。

地方ならではの実情や課題の切迫感、地方に身を置く我々だからこそ理解し、力を尽くすことができるものと確信しています。

Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私自身はヘルスケアチームをリードする1人として、厚生労働省をはじめとする官公庁や都道府県、市町村、医療機関をクライアントとするプロジェクトに多く携わっています。日本は少子高齢化による疾病構造の変化や医師偏在の問題に直面しており、国はこれまでの病院の在り方を抜本的に見直し、各地域の事情に応じた持続可能な医療提供体制の整備を求めています。個別の医療機関の経営はもとより、国や自治体と連携しながら、地域全体で持続可能な提供体制をいかにして整備していくかについて、医師の働き方改革との両立を含めて検討しています。

医師不足に悩む地域において、異なる経営形態の医療機関間での医療資源の集約化や地域住民の理解をいかにして進めるか、非常に難題ではありますが、長期的視点から必要な提言や支援を行っています。



Q.デロイト トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 過去に複数の事業会社を経験してきた私の目線から見ると、デロイト トーマツの魅力は大きく2つあります。1つは、真に自由な組織であること。私たちは課題解決を生業としており、自身の組織においてもそこに課題があれば、常に解決に向かいます。そのため、法人としての歴史や伝統がある一方、古き悪しき慣習などは無く、声の上げやすい働きやすい職場です。自身の希望やキャリアプランを最大限に尊重した配属やチーム組成、人材育成が成されるため、私たちはクライアントに対する成果やその品質に集中して仕事を行うことができます。

もう1つは、仲間と達成感を共有できることです。ご想像に違わず、アドバイザリーやコンサルティングは簡単な仕事ではありません。明日出すレポートは、本当にクライアントにとって正しい答えであるか、最後の最後までチームメンバーとともに悩みながら業務を行っています。同じ想いで、同じ目標に向かって苦楽を共にする仲間とともに得られる達成感、何事にも代えがたいものと感じています。



Q.デロイト トーマツでの女性の働き方について教えてください。

A. 育児支援を始めとする各種制度は充実していますので、女性として働きにくさを感じる場面はほぼ無いに等しいと考えています。キャリアか育児を選択する必要はありませんし、キャリアの他に選択するものが育児である必要もありません。内外ともに女性比率も高くなっているので、逆に女性としての特性を活かした考え方や働き方が求められていると感じます。過去の慣習や固定概念にとらわれない、多様な考え方を組織やプロジェクトに取り込むことで、これから求められる社会課題への取り組みにおいて新しい価値を創造していけると考えています。

デロイト トーマツではジェンダー平等に限らず、外国人を含む多文化の共生や、LGBT+、障がい者活躍など、幅広い取り組みを進めており、多くの方が成功体験を積み、私たちにフィードバックすることでさらによい支援制度を構築する、好循環のある組織です。

女性だから、経験がないからといって何も躊躇することはありません。あなたの持てる優秀な能力を最大限発揮していただける場がここにはあります。

プロジェクトのニーズに合わせて、 お客様に価値を提供していく

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

西日本リスクアドバイザー コンサルタント 〈2021年1月入社〉

IT業界出身

DX推進支援アドバイザー／西日本エリア／多様な働き方／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私は事業会社や地方公共団体のお客様へDX推進を支援するアドバイザー（コンサルティング）業務に従事しています。お客様の情報システム化構想策定やシステム調達の助言（RFP作成やベンダー選定の助言）、システム導入のPMO支援等、お客様の情報戦略策定から実行まで攻守にともに広くサービスを提供しています。また、その営業・提案活動にも携わせていただいております。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 人と情報、そして多様な働き方ができる点です。

トーマツには様々なスキル・経験を有した人が在席しており、多くの専門性がデロイトのネットワーク内に存在し共有できる環境にあります。そのような方々

と働けることが日々勉強になっていますし、お客様からの多様なニーズにも応えられる点が強みであり魅力です。また、職位や役割等に関わらず、発言を受け入れてもらえる風土ですので、入社間もない方でも安心かつ積極的に働けることも魅力です。

トーマツでは基本的にはプロジェクト単位でチームを組み、仕事をします。

業界やテーマも様々で、希望するプロジェクトがあれば西日本エリア以外のお客様のプロジェクトへも手を挙げるができます。プロジェクトにアサインされるかはタイミングにもよりますが、コーチや上位職の方とは、面談等を通じて希望を伝え、意向を汲み取ってもらえる風土です。昨今はテレワークが中心で、必要に応じてお客様先へ訪問するなど効率的に働くことができます。このように多様なプロジェクトへバーチャルとリアルの両面で参画し働ける点も魅力です。西日本リスクアドバイザーでは、様々な業界やテーマ（システム監査、ITコンサルやセキュリティコンサル）のプロジェクトがあります。専門性を深めていきたい人にも、新しい分野にも挑戦しスキルの幅を広げていきたい人にもおすすめです。

Q.このお仕事の難しさとやりがいを教えてください

A. トーマツでは、それぞれのプロジェクトのニーズに合わせて、お客様に価値を提供していくことが必要になります。ここが難しさでもあり、ご納得いただいたときのやりがいにもなります。

お客様はトーマツへは監査法人として経営（会計）視点でのアドバイザーを提供して欲しいという期待値を持って仕事のご依頼をいただくことが多いです。例えば、情報システム化構想策定がテーマのプロジェクトであっても単に経営計画に沿った最適なソリューション導入を検討するだけではなく、経営や会計、ときには組織のあり方までを意識したアドバイザーを求められます。この点も一般的なITコンサルタントよりも難しいところかと思えます。

私は前職までIT業界でシステムを作るという経験しかありませんでしたが、月日と共に多くのことを学んでいける環境であり成長を実感できる点がトーマツで働くことの楽しさでもあります。





Q.今後の目標を教えてください

A. 私自身、まだまだ学んでいる身ではありますが、チームや他のリージョンから必要とされる専門性を身に付け、トーマツが向き合っている多くの社会アジェンダにも関与して幅広く知識・経験を積んでいきたいと思っています。

今後さらにデジタル化が進んでいく反面、デジタル人材の不足も課題となっています。日本では組織内部でデジタル人材を抱える割合が少なく、デジタル化に課題を抱えている企業、地方公共団体等が多いです。そのようなお客様を支援し成長のお手伝いをする事で少しでも社会の発展に貢献できるよう私自身も成長し続けていきたいと思っています。

新しい技術とビジネスの接点を作ることがミッション

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
RA新規事業推進 シニアマネジャー 〈2013年5月入社〉
広告代理店出身
新規事業推進／女性活躍／女性の働きやすさ

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.RA新規事業推進チームの仕事内容について教えてください。

A. 私はRA新規事業推進チームで、主に技術とビジネスの接点を作るという新しいオフリングサービスの開発に取り組んでいます。
また新規事業の開発と並行して、アナリティクス戦略やテクノロジー活用に関わるアドバイザー業務、ブランディングやマーケティングに関する海外デロイトが提供するソリューションの日本導入なども行っています。
チームのミッションは、AI、IoT、ビッグデータ、Fintech、ブロックチェーンといった新しい技術を活用して、企業や社会のリスクを低減するソリューションを構築すること。業務が幅広いため、お客様も金融機関や保険会社、消費財メーカー、IT、旅行業界など非常に多岐にわたり、さまざまな課題に対して、サービスを提供するのが特徴です。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 新卒で広告代理店に入社し、その後、外資系化粧品会社に勤めていました。広告代理店では戦略プランニング部門のディレクターとして、ブランド戦略、新規事業戦略など、現在の業務のベースになるような仕事を、化粧品会社では、CRM統括として、顧客育成戦略や顧客データを活用したマーケティング計画立案に携わってきました。

トーマツに入社したのは、当時MBAのクラスメイトだったトーマツ勤務の友人に紹介いただいたのがきっかけです。カスタマーアナリティクスという、マーケティング領域のアナリティクスサービス立ち上げというチャレンジングな仕事に魅力を感じたことが1つ。
もうひとつがトーマツで働く人の専門性の高さや多様性、そして新しい取り組みに対して積極的な企業風土にも惹かれ、入社を決めました。



Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 現在の業務は、正解が1つではないところが魅力でもあります。
課題解決に向けて、いくつもの選択肢を見つけ、お客様とチームが一丸となって最善の方法に取り組むことがこの仕事の醍醐味です。そしてその結果、お客様が新しい一歩を踏み出し、会社や事業を推進するお手伝いのできるのが、一番のやりがいであり、幸せを感じられる時ですね。

一方で難しいのは、私たちのサービスが企業の中長期的なビジネスに直結したり、社会にインパクトを与えることもある点です。

もちろんそれはやりがいでもあるのですが、当然責任も大きくなりますから、常に緊張感を持っています。



Q.トーマツでの女性の働き方について教えてください。

A. 企業によっては産休や育休を取りづらい雰囲気があると聞きますが、トーマツには（少なくとも私が所属する部署では）そのようなことは全くありません。

私も産休と1年間の育児休暇を取得しましたし、男性で育児休暇を取得する方もいます。転職の際に私自身、女性としての働き方について考える機会がありましたが、トーマツは女性だけでなく、外国籍の人も働きやすい環境になってきているなど、非常にダイバーシティ推進に積極的だと感じます。

今後はシニアマネジャーとして、メンバー全員の家庭と仕事のバランスをうまく取りながら、質の高い業務ができる環境を整えてゆくことに貢献できればと思います。

私はトーマツの企業内保育園を利用して、出社前に子どもを預け、17時半までに仕事を終わらせて、子どもを迎えにいくというスタイルで働いていますが、これが特別なことではなくなる環境となればよいと思っています。

プライベートが充実していれば人間力の幅も広がりますし、より柔軟性と弾力性を持って業務にあたれるはずですから。

今、世界で起きていることを知りたい。その好奇心を満たせる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
リスク管理戦略センター マネジャー 〈2017年10月入社〉
証券会社出身
計量経済／働く環境・魅力／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.リスク管理戦略センターの仕事内容について教えてください。

A. 私が所属するリスク管理戦略センターは、社会や経済、政治などを横断的に見ながら、将来起こりうるリスクにフォーカスし、お客様に「御社の事業環境にはこういったリスクが考えられる。」といった情報を提供するユニットです。お客様は金融機関が中心ですが、近年、トランプ大統領の言動による影響や、中国の情勢など、グローバル化が進むなかでお客様は常に世界経済におけるリスクを意識していることもあり、一般事業会社からの引き合いも増えてきています。チームのメンバーがそれぞれ、定量・定性の様々なアプローチでリスクを整理・分析していますが、その中で私は主に、リスクシナリオの下で金利やGDPといった事業に影響を及ぼす可能性のあるマクロ経済の数字がどうなるかを想定する業務に携わっています。

私たちがベースラインと呼んでいる、何もなければこういう世の中になっているだろうという標準的なシナリオに加え、悪いことが起きたときに想定しうる状況を具体的な数字でお見せして、金融機関のストレステストに使っていただいたりしています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 大学を卒業後、証券会社のリサーチ部門や、新聞社の計量経済モデルを使った分析や予測をする部署などに勤務していました。

その後、一時期、計量経済の仕事から離れていたこともありましたが、やはり今までの経験をトータルでいかせるような仕事をと考えていたところ、出会ったのがトーマツでした。私にとって、この仕事に取り組む一番のモチベーションとなっているのは、「今、世界で本当に起きていることを知りたい」という強い思いです。

これは純粋な好奇心でもあるのですが、同時に、様々なビジネスを考える上でも重要だと思います。今、起きていることを正しく把握できれば、避けられるリスクやコンフリクトもあるはずですから。

トーマツであれば、好奇心を満たすと同時に、お客様のお役に立てるのではと考えたのが、入社を決め手でした。



Q.このお仕事の難しさとやりがいを教えてください。

A. 私たちは「フォワードルッキングな」情報を提供することを目指しています。

それは、リスクをどうやって「見える化」するか、つまり、今、起きてない、でもこの先起きるかもしれないリスクに根拠や具体性を持たせることです。当然ですが、私たちが作るリスクシナリオは空想であってはならず、こういう事象があれば、その影響はこれぐらいになるはずという根拠を伴った情報を提供しなければいけません。それが非常に面白いと同時に難しくもあります。

私が担当している業務は、将来のリスクを想定する判断材料の提供ですから、明確なゴールはありません。

そのため、お客様に提出するシナリオに具体性を持たせると同時に、日々変わっていく情勢のなかで、新しいリスクの芽が出てきたら、それをいち早くお伝えすることも非常に重視しています。



Q. トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. トーマツに入社してまず感じたのは、上下関係が非常にフラットで、効率的になるべくベストなものを出そうとしている社風であるということ。「働き方」が非常に洗練されていて、私もそれを見習わないといけないと感じています。

業務では、私がこれまで扱っていたのは古くからある大型・ケインズ型の計量経済モデルが中心だったのですが、社内のプロジェクトでそれ以外のモデルについても勉強する機会があり、少しずつですが試行錯誤を重ねている途中です。

私の業務はお客様の今のビジネスに直結するサービスではないからこそ、数年後、あるいは数十年あとになって、あのときの想定は正しかった、あの情報が役立ったとお客様に感じてもらえるようなサービスを提供していきたいですね。

クライアントのDX推進に向け、リスク起点でITプロジェクトを支援する

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
デジタルガバナンス マネジャー 〈2016年10月入社〉
証券系シンクタンク出身
基幹システム構築／働く環境・魅力／Welcome back（再入社）

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A.基幹システム構築における最初の段階のサポート業務をしています。具体的には、システム構想立案や要件定義、外部設計、ITシステムを守るための制度整備など、ITに関する“よろず相談”と言ってもいいかもしれません。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A.大学卒業後、証券系シンクタンクで5年半ほどSEとしてシステム開発・保守を経験し、その後コンサルティングの世界に入りました。3～4社に在籍しましたが、そのなかのひとつが、デロイト トーマツ コンサルティング（DTC）でした。そうしたキャリアを重ねるうちに、再びデロイト トーマツ グループのメンバーとして働きたいという思いが強くなったのが、DTRAに入社したいちばんの理由です。

デロイト トーマツ グループはクライアントからの信頼が非常に厚く、経営層の方と直接コンタクトすることもできるため、より高い次元で会社のビジョンやビジネスを知ることができます。またデロイト トーマツ グループのアセットをフル活用してクライアントにサービスを提供できることは、自分自身の成長にも大きく役立っていますね。



Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A.グループ内に監査業務を担うメンバーがいることで、クライアントのビジネスや業界全体について把握しやすい点は大きな強みです。もちろん、共有できる情報は一部に限られていますが、それでもクライアントの置かれている状況や課題感を把握した状態からスタートできることは、私たちにとっても、クライアントにとってもメリットです。しかし、信用の大きさの裏返しとして、クライアントからは高い品質を求められるので、アウトプットはしっかりとしたものでなくてはなりません。そのために内部でレビューを重ね、期待を超えるものを常に出し続けることが求められます。

いまは働き方改革の流れもあり、提供する価値を落とさず、いかに効率的に働くかを重視しており、昔からイメージされている「コンサル業」からは変わりつつあります。働く人の環境を常に改善している点も、デロイト トーマツ グループの特徴ですね。



Q.今後の目標を教えてください。

A.クライアントからもっとも期待されているのは「業務がスムーズに回る仕組み作り」。加えて、コストの削減、納品スピードの上昇、情報提供などの付加価値です。会社に蓄積されたデータを活用してビジネスをドライブさせたいというニーズは日々大きくなってきますし、2019年からは経済産業省を中心に「デジタルガバナンス・コード」策定への動きが進み、デジタルトランスフォーメーション（DX）を踏まえたITガバナンスはこうあるべき、というガイドラインができました。一方で、そうしたガイドラインにしっかり対応できている企業はまだ多くありません。日々進化する最新のテクノロジーを駆使しながら、クライアントDXを推進していく上での、リスクを起点としたアドバイザリーサービスを提供していきたいと思っています。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A.私たちの仕事に何より欠かせないのは、「何にでも興味を持てる」こと。コンサルタントは、「面白いな」と思うだけでなく、その裏にある仕組みがどうなっているのかを考える癖がついています。社会やビジネスがどのように成り立っているのか、その背景や仕組み理由に興味を持つことが、成長につながります。そしてもう1つ大事なことが、仕事を自分ごととして前向きに取り組めること。この2つを持っている人にとって、コンサルタントはとてもやりがいのある仕事だと思います。

正しいことを言える独立した立場から、 金融・保険業界の健全な発展に貢献する

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

デジタルガバナンス シニアマネジャー 〈2018年11月入社〉

DX支援／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A.私の主な業務内容としては、保険会社のクライアントに対して、経営管理態勢や内部管理態勢の実効性分析と強化、不正事案と報酬・業績評価体系の関連分析、それらの課題分析に基づくデジタルソリューションの助言業務を行っています。主なプロジェクトとしては、ビジネスモデル総点検や模擬的な金融検査、内部管理業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）支援等があります。持続可能なビジネスモデルとするために、どのようなガバナンスや3つのディフェンスライン（3LoD）が必要なのかを、経営陣や現業部門の方々と意見交換を重ねて、クライアントに適合した解を導き出す。現実的な解がデジタルソリューションになることは多く、DXに関する具体的な助言業務は、クライアントの興味も強い領域です。。

これらのプロジェクトの背景には、昨今、金融庁が公表した「コンプライアンス・リスク管理基本方針」や「顧客本位の業務運営に関する原則」が強く影響しており、リスクアドバイザリー業務は、今後一層重要になっていきます。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. 経営管理態勢や内部管理態勢と、デジタルソリューションに関するアドバイザリー業務の双方を担えることが理由です。

デロイト トーマツという独立した立場で、世界的な企業の経営陣と直接意見交換を行い、ガバナンスや3LoDの実効性を検証し、問題があれば解決に向けた対策を一緒に考えていく。その中で具体的な解決策がデジタルソリューションに帰結するのであれば、監督官庁の見解や業界動向を踏まえて、経営陣にDXの助言を行っていく。このような仕事は、とても大きなやりがいがあります。

しかし、保険会社の一社員の立場で、会社を内部から改善していくのは、容易ではありません。

そこで、正しいことを言える独立した立場であれば、業界そのものを改善、変革していくことができるのでは、と考えたことが保険会社から転職したきっかけです。デロイト トーマツ グループであれば、業界に与える影響も大きいと考え、入社を決めました。



Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 多くのプロフェッショナルと外を向いて働くことができる点は魅力だと思います。

現在監査法人トーマツからDTRAに出向しており、経営管理態勢や内部管理態勢等については、監査法人トーマツの立場として助言業務を行い、デジタルソリューションについては、ITリスクに関するコンサルティングサービスに特化したDTRAの立場として助言業務を行います。広範な領域について、外部専門家として仕事を行う中、相応の知見も必要とされます。実際のプロジェクトでは、監査法人トーマツやDTRA、その他のグループ会社と協働することがほとんどで、チームで検討を重ねながら、みんなが納得するソリューションを、チームワークによって出していきます。

クライアントに貢献できる質の高いアウトプットを出すために、グループのプロフェッショナルの知見やノウハウを集約し、アウトプットの評価はクライアントが行う。その一連の流れがシンプルで、個々の能力が最大限に発揮できる職場だと思います。



Q.今後の目標を教えてください。

A.大きな目標は、金融・保険業界に顧客本位の業務運営を定着させること。そのためにも、まずは個々の会社が顧客本位の業務運営を実施しやすくするための支援を続けていきたいですね。たとえばリスクの可視化もそのひとつ。顧客本位に反する行為に対して、事後的に対処するのではなく、予兆管理を実施し、リスクが顕在化する前の段階でその行為をコントロールしていき、不正の未然防止を図る。

年間数十万件以上の新契約や保全を取り扱う保険会社では、人手でそのリスクを網羅的に把握するのは不可能です。そこで解決策となるのが、デジタルソリューションによるリスクの可視化です。今までトレードオフになってきた業績向上とコンプライアンスをITにより両立させる。この課題を解決して、健全な業界の発展と社会の安定に貢献できればと考えています。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A.デロイト トーマツのようなプロフェッショナルファームは、ビジネスを通じて社会を良くしたいと考える方に最良のポジションだと思います。もちろん、クライアントへの提案の際は、クライアント以上にその業界やビジネスのことを熟知していないと、説得力のある内容にはなりません。特に、経営陣に対してアドバイザリー業務を行う以上、広範かつ深い知見が必須になります。プロフェッショナルとして業界や社会を良くしていき、貢献していくという気概を持ち、努力を続けることが何より大事だと思います。

DX時代の新しいアドバイザー像をつくりたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社

デジタルガバナンス シニアマネジャー 〈2020年12月入社〉

金融系Sier出身

グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



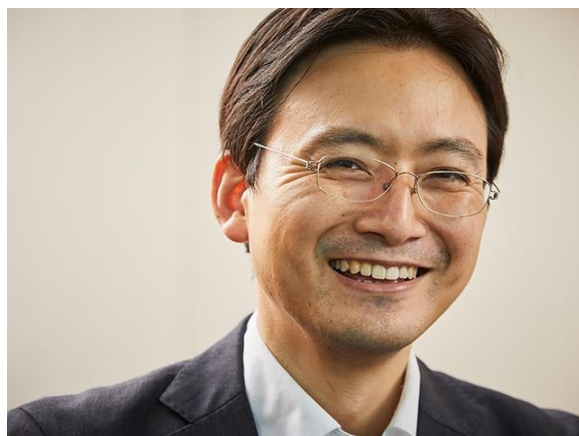
Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 現在、担当している主な業務は3つあります。1つ目は、収益管理のアドバイスで、製造業のクライアントのプロダクト・ライフサイクル・マネジメントに関わっています。2つ目は、あるクライアントのM & A後のシステム統合における財務領域のシステム要件定義を担当しています。3つ目は、オフリングと呼ばれる新しいサービス開発にデジタルガバナンスの代表として参加しています。これはDTRAの各サービスを一通貫した形で提供するための仕組み作りで、まさにこれからという段階です。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. 入社前は金融系のSierを経て、日系大手コンサルティング会社、その後、連結決算システムを提供する会社で経験を積んできました。キャリア全体としてはシステム構築から、徐々にアドバイザーに軸足を移してきたと言えます。DTRAに転職した理由は、大きく2つです。ひとつは、前職ではグループ経営管理を支えるベンダーとして、しっかりとしたソリューションを提供できるようになった反面、ある課題にはこの製品、別の課題にはまた別の製品といった具合に、トータルでサービスを提供することが難しくなっていたこと。もうひとつは、昨今のアドバイザーに求められることが、課題を整理し、時間をかけて解決するよりも、クライアントと並走しながらその時々で最適なソリューションを提供することなのではないかと感じ始めていたことでした。

ちょうどそんなとき、エージェントから紹介されたのがDTRAでした。DTRAは会社のミッションとして、仮説を立て、試行錯誤することから成果を見出そうとしており、その考え方に共感したことが入社を決め手でした。



Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. いちばん大きいのは、グループ全体で課題にあたっていく体制があることです。たとえば今、携わっている2つのプロジェクトはどちらもDTC（デロイト トーマツ コンサルティング）の案件で、デロイト トーマツ グループとしてクライアントにサービスを提供しています。このようにグループの枠組みを超えてさまざまな案件に関われることを、非常にポジティブに捉えています。

また、グローバルのメンバーファームとして、アメリカやヨーロッパのデロイトとも連携して仕事ができるのも大きな魅力です。クライアントのグローバルな課題に対して、“オール・デロイト”として当たることができています。国を問わず、誰もがグループのプロフェッショナルとして強みを発揮しながら、チームとして仕事ができていることがモチベーションを高めてくれますし、最善のサービスを提供できることにもつながっています。



Q.今後の目標を教えてください。

A. デジタルトランスフォーメーション（DX）時代のアドバイザーの新しいあり方をつくりたいというのがいちばんの目標です。

近年では世の中を変えるようなITサービスがどんどん生み出されており、コンサルタント/アドバイザーにはそうした最先端のITソリューションを活用することが求められています。

ドラッカーの言葉に「テクノロジスト」というものがあります。技術を理解し、それを正しく活用して世の中を変える存在という意味ですが、これからの世界では、「複雑な顧客課題を理解し、技術を活用したDX時代のあべき姿を提示し、その実現までをリードできるテクノロジスト」が求められるはずです。

ITベンダーでも、コンサルティング会社でもない「監査法人のアドバイザー」というビジネスフィールドでこそ実現できるものがあると、私は確信しており、そこにチャレンジしたいと思います。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. アドバイザーには、何事にも興味を持ち、積極的な行動をおこせる人が向いていると感じます。

興味の方角はIT、ビジネス、クライアント企業等、どのようなことでも構いません。プライベートの趣味でも構わないと思います。

自分なりの強みを意識して持った上で、仕事の上では積極的に必要な情報を集め、コミュニケーションを図ってゆく。

そうした姿勢を持っている人は、この仕事に向いているのではないのでしょうか。

特に、クライアントと並走してサービスを提供しているDTRAには、一人一人の個性が輝き、認められるチャンスが多く存在すると思います。

各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
デジタルガバナンス シニアコンサルタント 〈2020年3月入社〉
独立系SIer企業出身
グローバル連携／若手活躍／リモートワーク

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 入社後、最初に参画したプロジェクトは、ある消費財メーカーをクライアントとするシステム開発プロジェクトでした。クライアントがグローバルで事業展開を進めるなかで、同じ商品や素材でも各国で管理コードの体系が異なる状況が続いており、グローバルでの迅速かつ適切な意思決定に支障を来していました。プロジェクトでは、各国の担当者と会話しながら、グローバルで共通となるコード体系の作成を支援しました。

現在は、あるクライアントにおける大規模なシステム更改プロジェクトに参画していますが、ユーザー権限に関する方針を検討するチームに所属しています。別のシステムへ移行するため、ユーザー権限に関する設定をそのまま引き継ぐことが難しく、新システムにおけるユーザー権限に関する設定のあるべき姿をクライアントと協議するところから支援しています。

ほかには、デロイトの他国のメンバーファームと協業して、コロナ禍でクライアントとの接点が減っているという課題に対して、VRなどのテクノロジーを活用したタッチポイントの創出に挑戦しています。

参画する案件によって業務内容は異なりますが、クライアントの課題を理解し、支援するという点は共通しています。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. クライアントがデジタル技術を活用していく場面において、幅広く支援できることです。

前職ではETLやデータガバナンスに関わるツールの導入や開発支援を行っていました。独立系のSIer企業だったので、さまざまな製品に触れられる環境ではあったものの、クライアントを支援できる範囲が実装フェーズなど限られた領域となるケースも多かったです。DTRAはデータガバナンスに関わるサービスを幅広く展開していることから、構想策定から実装までクライアントとともに考え、支援しています。

Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. DTRA社内、デロイト トーマツ グループ内に各業界・各分野の専門家がおり、そこから最新の動向を知り、それを自ら主体的に社会に還元できることです。先に触れたVRを使ったプロジェクトも、既にデロイトUKが社内で行っていたものです。UKのメンバーと連携し、その環境を活用して進めました。こうした最先端の情報や取り組みを活用できるのはデロイトという、グローバルなプロフェッショナルメンバーファームならではの強みだと思います。グループ内で規模の大きなプロジェクトもハンドリングできるので、チーム一丸となって、クライアントが求めている以上の品質を提供することが可能になっています。

また、入所したのはコロナ禍の2020年3月でしたが、社内の人とはプロジェクト内外問わず、リモートでも距離を感じずに、スムーズに連携ができました。リモートワークに不自由さを感じないのは、一人ひとりがプロフェッショナルとして仕事をしながらも、互いを尊敬し、一体となってクライアントに最善のサービスを提供するというDTRAの社風も影響していると思いますし、そうした雰囲気も気に入っています。





Q.今後の目標を教えてください。

A. ビジネス視点においてもガバナンス視点においても、デジタル技術やデータの重要性は年々増えています。どうすればビジネスを推進しつつ、しっかりとリスクを低減していけるのか。実際にプロジェクトに参画すると、クライアントのIT部門とビジネス部門など、企業内でも温度差として、このことが顕在化するケースが少なくありませんが、このようなギャップを解消することがクライアントにおけるデジタル技術やデータの活用の鍵となると思っています。これらの案件にさらに注力していきたいと思っています。

私個人としては、プロジェクトが完了しても、次にまた「あの人をお願いしたい」と言って頂けるようなコンサルタントになることが目標です。大企業になればなるほど最新のソリューションを期待されますから、常に知識面でも圧倒的に強いと言えるようにしておきたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. DTRAをはじめ、デロイトトーマツグループには、誠実に人と接し、周囲から求められているものを把握し、やるべきことを自ら考えて取り組む人が多いことが特徴だと思います。

私自身もプロジェクトの最中は学びながら手探りで進める部分もあり、大変なことも反省点も多々あるというのが正直なところですが、しかし、それだけにプロジェクトが終わった段階で大きく成長したと感じています。

豊富なスキルや知識だけではなく、時に泥臭い作業を進んで実行し、常に最善を尽くすためには努力を惜しまず、愚直にやりぬくことで、クライアントに価値を提供しつつ、自らも成長していける、そのような仕事を求めている方は是非、DTRAに来ていただきたいと思います。

業界全体をより良くするための力になりたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザー株式会社
デジタルガバナンス シニアコンサルタント 〈2020年7月入社〉
保険会社出身
保険業界／成長実感／若手活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 前職の保険会社での経験を活かし、主に保険業界のクライアントに経営管理態勢や内部管理態勢の実効性の分析とその強化のアドバイザーを行っています。昨今、業界では顧客本位の業務運営、いわゆるフィデューシャリー・デューティーの考えが急速に進んでおり、需要の高まっている分野です。例えば、不適切な事案が起きた場合には、その会社の業績評価体系などについて分析を行います。ヒアリングをもとに現状を把握し、可視化したうえでマニュアルなどに落としこみ、最終的にはガバナンスや内部統制の観点、業界の動向トレンドを踏まえつつ、それぞれの会社のビジネスモデルや業務、組織の特性に合った改善案を指し示していきます。

クライアントのなかには同業他社や現場の声を気にされる方も多く、その点では保険会社で勤務していた経験が知見のベースとして役立っており、経営陣から見えにくいところも踏まえて助言することを大切にしています。また、現在は保険業界の高いレベルのガバナンスの知見を最大限に活かすため、重厚長大なインフラ系企業やメガキャリア、インターネット関連のスタートアップ企業など、本質的に求められるものが同様のため、幅広く他業界への支援も行っています。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. 保険会社の一社員という立場ではどうしても会社経営に関して見えにくい部分があり、経験を重ねるうちに、経営管理態勢や内部管理態勢にも関わりたいという思いが強くなっていきました。そうした考えから、独立した立場で客観的な改善案や情報を伝えられるアドバイザーを選びました。デロイト トーマツは、クライアントに大企業が多く、業界全体をより良くするための改革に関わることができ、業界に与える影響も大きいと考えたことが入社を決め手です。以前からデロイト トーマツ グループをはじめとするファームには深い専門知識を持つプロフェッショナルが多いという印象をもっており、一緒に働くことで自分も知識を身につけたいと感じたこともデロイト トーマツに惹かれた理由のひとつです。



Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. DTRAでは探究心をもって常に勉強されている人が多く、そうした一人ひとりの姿勢が、グループ全体の強みにつながっていると実感しています。他業種からの転職ということもあって最初に参画したプロジェクトでは戸惑いもありましたが、ひとつのプロジェクトを終えるごとにそれまで培った知見を活かして円滑に進められるようになり、成長も感じています。また、DTCや監査法人トーマツと一丸となって案件に取り組む機会がほとんどで、想定していたよりも幅広い仕事ができていることも嬉しいですね。複数のプロジェクトに参加することでさまざまなノウハウを蓄積できますし、次のプロジェクトで伝えられる情報も豊富になるので、さまざまなチャンスが用意されていると思います。



Q.今後の目標を教えてください。

A. 企業のガバナンスが問われる今、顧客を第一に考えることが保険契約継続を促し、長期的には私たちのクライアントの成長にもつながっていく。こうした考えをもとに、業界全体の改革に今後も携わっていくことが一番の目標です。とはいえ、顧客第一という視点だけではクライアントの利益が伴わないケースもありますし、ガバナンスの強化もすぐに成果にはつながりにくく、難しさもあります。業界の動向やベストプラクティスをしっかりと伝え、契約継続率等、システムを用い可視化することで、その成果と重要性を説明するようにしています。ガバナンスや内部統制に関する問題をデジタルソリューションで解決するという仕事を極めて、業務改善をしっかりと提案できるアドバイザーになっていきたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. アドバイザーは短期間で複数のプロジェクトに取り組むため、積極的にたくさんに関わっていくような、チャレンジ精神のある人にはとても向いている仕事だと思います。同時にクライアントとの間で認識相違のないよう、高いコミュニケーション能力が問われる仕事でもあります。

私はコロナ禍での異業種からの中途入社で不安もありましたが、DTRAには周りのメンバーが細やかにフォローしてくれる環境が整っていますし、入社以来完全リモートで働き方も一人ひとり柔軟にコントロールできる体制もあって、女性でもとても働きやすいと感じます。業務に関してもチームの定例ミーティングをはじめ、勉強の機会は豊富に用意されていますから、アドバイザー経験のない人にも興味をもていただけたらと思います。